

令和3年度 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程学位論文要旨

「グロテスク」の潜む身体—生命化する流体模様—

東京藝術大学大学院
美術研究科博士後期課程
美術専攻日本画研究領域
学籍番号：1319903
和田宙土

論文要旨

本論文は、描かれる墨の流体模様に「グロテスク」を潜ませることで、生命の美しさを表現する制作動機とプロセスを論じるものである。

私は、眺めていた水中の墨模様が偶然、人間の形を模した瞬間、生命が宿ったように感じた。やがて消えるその模様は、私が幼少期に感じた生命の美しさを呼び起こした。それは、当時飼育していた生物の生死を幾度となく目の当たりにしたことで、生きている物をより美しく輝かせるのは死骸の存在であることに気づき、いわば生命の内に相反する美を見た感動だった。死骸が美しいのではなく、生と死を併せ持つ生命が美しいと思えたのである。その脳裏に焼き付いた感動の再来が、無意識に私を制作へと向かわせた。

絵画に、見えないものを見えるようにする意義があるとするなら、私は生でもあり死でもある^{もつ}纏れの美しさを描きたいと考えている。私は内に潜む「グロテスク」を描くことで、それを表そうとしているのである。

グロテスク表現に共通する点として、生命の消失感を挙げたい。「グロテスク」は今まさに生命が失われようとする瞬間であり、私が描きたい纏れと一致するところが多い。しかし単に「グロテスク」なだけでは、美しさは薄れ、恐怖を感じさせるものとして見られてしまう。そこで、人型の墨模様に生命の美しさを見出したような感情移入を利用し、グロテスクなものを観者の内面に潜ませることで、私が感じる生命の美しさを表現できるのではないかと考えるに至った。

本論文はその創作論であり、次の3章からなる。

第1章『「グロテスク」の定義』では、自身の「グロテスク」の定義と自作品とのかかわりを考察する。第1節『「グロテスク」の意味』では、様々な作品に見る不快表現からグロテスク表現を分類し、私自身が感じる「グロテスク」の視覚化について論じる。また

それに基づいて、グロテスク表現に生命の消失、一定の細かさ、うごめく流動的な線という共通項を指摘し、それぞれをヴォルフガング・カイザーが考察する「グロテスク」の定義から考察する。第2節『「グロテスク」と血液』では、「グロテスク」が不快表現の中でどの位置にあるのかを図解化し、様々な作品中にみられる血液の質感の違いが不快表現のどこに分類されるのかを示す。その上で、水中の流体模様の形状が赤色を帯びることで、「グロテスク」を示唆できる可能性を考察する。

第2章「身体表現」では、自作品における身体表現の形成の根拠と、その方法について述べる。第1節「身体表現の形成」では、「グロテスク」を成立させるために、流体模様に顔と身体が必要であること、そしてそれを出現させる方法について考察する。ジョルジョ・デ・キリコのマネキンが描かれた作品を例に、対象と自身を融合させる感情移入が、墨模様から「グロテスク」な身体を見出す条件であることを述べる。第2節「無意識と身体表現」では、制作中に行われる偶然の必然化が、無意識の制作動機である生命への表現欲求と結びついていることを明らかにする。また、そこでの身体表現が生み出す「残留物」が、「グロテスク」とどのような関係にあるのか考察する。

第3章「提出作品」では、第1章で定義した「グロテスク」と第2章で示した「グロテスク」な身体を、美しい生命の表現へと昇華させる試みについて、提出作品を中心に論じる。第1節『「グロテスク」の潜む身体』では、自身の原体験や庵野秀明、フランシス・ベーコンなどの作品に潜む、「グロテスク」と美の関係を考察する。第2節「生命化する流体模様」では、「グロテスク」の潜む身体とするために、提出作品に使用した色彩、画材の考察を中心に、流体模様の生命化について論じる。

終章では、この纏れる身体表現が、絡み合う伏羲と女媧を模していた可能性と、さらなる発展を遂げる余地に関して述べる。

目次

序章		1
第1章	「グロテスク」の定義	3
	第1節 「グロテスク」の意味	3
	グロテスクという言葉	4
	グロテスクの構成	4
	グロテスクの形	6
	グロテスクの定義	8
	第2節 「グロテスク」と血液	12
	不快表現の分類と血液	12
	赤の効果	19
第2章	身体表現	23
	第1節 身体表現の形成	23
	グロテスクの対象と決定	23
	顔が見立てるもの	24
	顔の出現とグロテスク	26
	第2節 無意識と身体表現	27
	偶然の必然化	27
	覚醒夢—自動記述と自動デッサン	30
	過去作品	32
	現在作品	34
	手描きへのこだわり	34
	作業工程	36
	残留物	38
	身体表現	39
第3章	提出作品	41
	第1節 「グロテスク」の潜む身体	41
	グロテスクの原体験	41
	美としての表現	41
	第2節 生命化する流体模様	42
	蛍光色	42
	ピンクの見立て	42
	墨色からピンク色への変化	42
終章		43

圖版出典一覽

参考文献

謝辭

